

### オリンピックを目標して―竹内選手と「練習スネ」

1月19日、「スノーボードキッズわくわく杯 in 東川」が開催されました。「協力・東川町」

▼一緒に滑走する竹内選手(写真奥)



主催の&tomokaは、ソチオリンピック・パラレル大回戦の銀メダリストである竹内智香選手が、選手育成やスノーボード普及のために設立した会員制団体。リシャールミルジャパン(大阪市、川崎圭太社長)、北海道日本ハムファイターズ「ゆきのね奨学金」の協力を得て、かつて竹内選手が初めてゲレンデに出たキャンモアスキービレッジにて開催されました。竹内選手は開会式で「今回競技を経験してオリンピックに興味を持ち、スपोर्टって楽しいな」と



▶講習会の様子。行きたい方向に指と目線を向けて！

大会後はボード初体験の子たちに向けた講習会も行いました。竹内選手がスケートティング(片足で地面を蹴って進む)、直線滑り、カーブ、止まる方法を順番に伝授。子どもたちは見る間に上達していきま

つきました。スノーボードを始めるきっかけをつくりたいという竹内選手の思いは、皆に確かに届いたようです。

### クロカン少年団、サハリンで1位

1月6日〜9日、東川クロスカントリー少年団の5人リ写真下段



▶大会に出たサハリンの子どもたちと一緒に

右から田淵裕哉さん、石原喬(たか)さん、左端が佐藤慶さん。中段右から田淵裕哉さん、青木陽さん。いずれも東川小1らがロシア連邦サハリン州を訪問し、7日にアニワ市トロイツコエ地区で行われたクリスマスクロスカントリー大会に出場しました。今回の遠征は、昨年9月に姉妹都市となったアニワ市より招待され、初の交流事業として実現。同大会では石原さんが年齢別1位

となったほか、全員6位までに入賞という好成績を残しました。大会以外にもクリスマス散歩(大会関連イベント)など、ゆっくと駆け抜けました。



▶寒い中でも笑顔で快走！

コースの途中、ハルキツチンさん(東11号)でのエイド(途中休憩)では、自家製パンや4種類の焼き菓子、具沢山の中華風スープとコーヒーで体を温めてエ



▶エイドのパウンドケーキとマフィン。塩気の効いたスープも運動した体にしました。

### 極寒の雪道を自転車でも走破

1月19日、第3回キトウシ銀冬サイクリングツアーが開催されました。「主催・同実行委員会(東川振興公社内)」

人多い36人。快晴で肌がピリつく寒さの中、大雪山連邦に見守られつつ、キトウシ森林公園―忠別湖周回コースをマウンテンバイクやファットバイク(極太タイヤの自転車)

### デザインってなんだろっ？

昨年12月22日、せんとびゅあにて第57回デザインスクールを開催しました。前月に続く織田憲嗣氏による特別企画で、今回は「丁寧な暮らしと暮らしのデザイン」について講演。



▶職人手作りの先端がとても細い筆。口に入れても存在感が無く、食べ物味がよくわかるそう。(第57回)

会え、人間性までをも高めることができると力説。「消費者ではなく使用者、愛用者になることで、良いモノを作り続けるための『作る』『売る』『買う』の3者の関係が成立する」という言葉が印象的でした。

今回は来場者にも「切ってもクズがないパン切り包丁」や「極細の竹のお箸」などの愛用品を持参いただきました。購入時は高額に感じても長年使うことのできるものは、結果的に値段以上の価値があるという好例でした。

### つづきを つづける

昨年12月26日、ギャラリー大通美術館にて第3回さっぽろデザイン・アーティストスクールを開催しました。講師はデザイン活動家のナガオカケンメイ氏。「その土地の文化」を伝える数々の活動を行っている氏に、時代を超えて残る「ロングライフデザイン」についてお話いただきました。

長く受け継がれるものの共通点は、「流行には乗らずに、時代に合わせて少しずつ進化すること」だと言います。例として「なるべく変えずに新しくしてほしい」とオーダーされてリニューアルしたパッケージの写真を紹介。「変えてはいけない」と「変えていく」という考え方を合わせ持つブランド戦略の考え方は、脈々と培われてきた文化と新しい文化が共存する

「東川スタイル」にも通じています。「物流や交通が早い今の時代は、よりその土地に行く価値(らしさ)が問われる。地元の人とその土地らしさを客観的に理解し、無理のないデザインをすることが重要」とナガ



オカ氏。「土着のものや自然にあるものを見直し、古臭くならないように少しずつ時代に合わせて新しくする。それぞれの個性を伸ばせる豊かな国になるために、みんなで頑張りましょう」と語りました。

続く1月12日の第58回デザインスクールでは、「椅子」について詳しく解説。椅子は「体を受け止め、支える道具」という物理的な意味と、座る人の「権威を表す」という精神的な意味があり、東川町で始まった「君の椅子」は「居場所を表す」という新しい意味づけがなされていると



▶座り心地は悪いが、優れた造形で置かれた空間を引き締める椅子(第58回)

椅子の魅力は、①彫刻にも劣らない美しさがあり、②作家の個性が最も反映される家具で、③ひじ掛け、背もたれ、脚など人体と同じ名前がついていることからわかるように人間に最も近い道具で、④人間の心の奥底にある権力志向を満たしてくれることだとい

います。名作椅子とは、それらに加え、①目的に応じた機能性を備え、②丈夫な構造で、④ロングセラーであり、⑤時代を象徴しているものである、などと具体例を交えながら解説。